

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 7 月 18 日
事業所名	生協あじまの家グループホーム 3 階
事業所番号	2370301315
記入者名	職名 氏名 原田房子
連絡先電話番号	0 5 2—9 0 9—4 1 8 8

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		事業所独自の理念”あ:あんきにくらすふるさとのよう、じ:じんわりほんわかひだまりのよう、ま:まごころあふれるやさしいひとみ、の:のんびりゆったり、い:いつだって、え:えがおがひかるわたしのおうち”
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	朝の申し送りで必ず確認しあう。また、毎月の職員会議でも毎回確認する。(会議のレジメにも掲示)カンファレンスの判断基準にも当てはめてみる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族には、年3回の家族会交流会で理念を伝え、理解してもらおう取り組む。また、家族へのホーム便り「すずらん」の中に理念を常に掲示する。地域には、グループホームニュースを作り、配布する予定で取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	回覧版を入居者と共にまわしに行く。あいさつをして手渡してくる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	グループホームニュースを作り、配布する予定で取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	講師依頼がある時は地域に出かけているが、こちらから積極的に出かけることはしていない。	○	中学生のサマーボランティア、一日体験、施設見学など、中学校に声を掛ける。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々、評価については、職員全員の意見が反映されるように作成してきた。課題については、全員で話し合い、改善に向けて具体的な取り組みにつなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価については、運営推進委員会で2ヶ月に1回報告し、意見を聞いている。職員やボランティアの募集もお願いしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村職員が運営推進委員会に参加してもらえないため、意見を交換する機会ができていない。	○	運営推進会議には、市町村職員にもぜひ加わっていただき、指導してもらいたい。担当者に連絡を入れてみる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状は、管理者が対応しており、職員の教育には至っていない。	○	職員一人ひとりが、入居者が権利擁護が必要な時があることを学ぶ機会を作る。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は名古屋市の高齢者虐待の研修に参加している。職員が仲間にSOSを出せる関係作りに努めている。	○	虐待について学び、名古屋市高齢者虐待センターの存在を伝える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	今後も、「すずらん・健康便り」発行及び、家族会学習会を継続していく。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族とは、ケアプラン説明時に家族面談を持つ。管理者、職員も訪問された時は話しやすいよう声かけをしている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が交代する時には、できる限り生活環境を変えないように引継ぎの時間を十分取るようにしている。引き継いだ後も入居者が戸惑わないよう他の職員がサポートしている。職員の写真と名前を掲示しており、業務に入る時には、必ず一人ひとりに挨拶し、担当であることを伝えている。	○	異動があれば、入居者を第一に考えた異動の時期を工夫する。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、新任教育を担当者が付き、教育指導している。可能な限り、研修に出かけられるよう研修の情報を掲示し、参加希望を募っている。参加した職員は、職員会議で報告し、全職員に伝わるようにしている。現場で活かせることはカンファレンスして、入居者プランに組み込まれている。	○	新入職員については、法人の1年目研修の参加を保障する。記録やカンファレンスを通して学べる機会とし、参考資料、ミニ学習会をする。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム協議会に加入している。協議会が開催するもの、事業所独自のもの、労働組合関連などの研修会に参加している。	○	グループホーム協議会の研修会に加入していく。学習会や研修会に参加するよう、資料を掲示していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、職員の情報や疲労など、声を掛け、話しを聞くように心掛けている。連絡が取れるよう連絡先も明記しており、管理者宛に直接連絡が取れるようにしている。	○	管理者は、職員面接をする予定。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士、ケアマネージャー、ヘルパー資格希望者、その他研修希望については申請してもらい、研修や資格を受けられるよう情報を提供している。	○	入居者の担当制、「すずらん」への原稿記録など役割を持つ、カンファレンスなどで意見を言えるようにする。計画したことを実践し、評価できるようにする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時は、必ず本人家族と面接し、面識を持つようにしている。入居後は、生活に慣れるまで、中心に対応できる職員を担当に入れ、情報収集しながら、対応を検討している。入居時の本人の家族の状況は、日々、申し送りで共有している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族との面接を持ち、要求に対応できるか否かと、対応方法について説明している。入居後は、電話連絡をいつでも可能にし、状況を伝える。来訪時には面接を持ち、入居の様子と家族の希望を聞いている。面接記録を取り、職員にも伝わるようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族との面接を持ち、要求に対応できるか否かと、対応方法について説明している。入居後は、電話連絡をいつでも可能にし、状況を伝える。来訪時には面接を持ち、入居の様子と家族の希望を聞いている。面接記録を取り、職員にも伝わるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所では、家族や本人の見学をしていただき、本人、家族と職員が顔なじみになりながら、共同生活を準備をしていただく。入居準備なども手伝いながら対応する。本人が困らないように配慮する。入居者には家族の状況も話せるように、家族の状況も情報として知っておき、より馴染みになれるように努力している。	○ 入居予定の見学時には、ホールで入居者とふれあう機会を持っていただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者とは地域の中で共に暮らすという視点で支援するよう、職員全員が一方的な介護にならないように確認している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族に様子を伝えると共に、家族学習会を開き、家族と共に本人を支えていけるように働きかけをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	できる限り、互いの関係が疎遠にならないように、家族が気軽に訪問できるよう取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がそれまで馴染みだった関係の人、よく出かけていた場所などを把握し、継続的に地域で生活できるよう支援するよう取り組んでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係性について、情報を把握し、ひとりひとりの個性や性格を引き出し、ひとつの目標を助け合いながら達成できるように見守り支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約を終了した全ての利用者、家族ではないが、一部の人は電話などで連絡をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者ひとりひとり違うという認識を持って接している。ひとりひとりに日々の関わりの中で、声掛けをしたり、家族から情報を得る取り組みを行っている。	○ 行事、誕生日会など、できる限り来ていただけるよう働きかけをしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所では、職員が入居者、家族から聞き取りアセスメントを作成している。その人の今までの生い立ちや生活歴、地域の関係性や現在とのつながりを把握できるようにしている。	○ 不十分な点もあるため、更に情報を集め、その人をよく知り、その人らしい生き方を手助けするための手段としていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	聞き取り調査、日常生活から、その人のできること、できないことを把握し、全体の支援に活かしている。	○ こちらができないと判断して手を出すのではなく、見守りができるゆとりで接していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日常の会話、生活から改善点があるかどうか注意するように努めている。職員は、日常的なミーティングで気づいたことを出し合い、介護計画に活かしている。	○
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは職員全員のミーティングで改善案を出し合い、話し合っている。家族については、面談できない時は郵送でコメントをもらっている。	○ 介護計画の見直しについては、必ず家族との面談で作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的なケアの記録は、勤務毎に話すようにし、職員の交代時には引き継ぐようにしている。問題点は別のノートで申し送りしたり、週1回のカンファレンスで話し合いをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制は、往診、訪問看護ステーションなどでできおり、緊急時も管理者に連絡をし、対応している。	○	ADL低下の入居者も増えており、元気な人のニーズに合わせたプログラムが遅れがちになっている。この課題については、新たな担当を決め、取り組み始めている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域への社会資源の関係を重視しているが、定期的な交流はできていない。地域に向けてボランティアの受け入れ、保育園児との交流を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望や思いを読み取りながら、理容サービス、料理作り、掃除ボランティアを受け入れている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の場には、地域包括支援センターの職員を参加することができるように働きかけは行っていないが、今後は考えていきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望医科の受診ができるよう、必要に応じて対応できるように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医の受診ができるように体制を取っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員がいるので、いつでも対応できるようにしている。訪問看護ステーションと協力関係を築いている。	○	今後は、在宅支援診療所との連携を強めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院している病院関係者との情報交換や相談に努めている。退院時にもスムーズに受け入れられるように必要な準備にも努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合でも、本人、家族の希望を聞きながら、医療関係者と連携し、対応できるように、今後、職員間で学習しあい、作り上げたい。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期においては、家族と話し合いの場を持ち、事業者の「できること、できないこと」を見極め、医療期間との連携作りの取り組みを考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が他の事業所に移った場合は、必要な情報を伝え、引継ぎ、安心して生活ができるよう努める。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳、プライバシーを尊重するように教育している。また、個人のプライバシーに配慮したケアができるように職員から改善に向けた意見が出せるように努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が一方向的に決めるのではなく、本人が自分の意志で決めることができるように取り組んでいる。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員には、日常的に決まりや都合を優先させないように指導している。ひとりひとりの生活のリズムやペースについて、その人の体調に配慮しながら、個別性のある支援を行うようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪型や身だしなみについて、本人の好みに合わせて行えるように必要な支援を行っている。本人では決められない時は、一緒に考えるようにしたり、過去の情報から好みに合わせたものになるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、できるだけ入居者の意見を取り入れ、決めている。調理や配下膳についても、できる限り、入居者と共にできることをお願いするよう努めている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、ひとりひとりの嗜好を把握していると共に、嗜好品については、他の方の迷惑にならないように、場所、時間などに配慮している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できる限り、トイレで排泄できるように、本人の排泄パターンを考えながら、時間を見て、トイレ誘導をするようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせるのに、ひとりひとりの入浴時間を把握し、職員の勤務シフトに活かしている。入浴を拒否する方については、安心して入浴していただけるよう職員間で連携して取り組んでいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者ができる限り、日中に活動し、夜間睡眠できるようにひとりひとりの生活リズムを把握するよう努めている。また、家族や医師とも相談しながら必要な時には、薬剤などの使用もしている。その方の生活全体から安眠について考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ミーティングなどを通して、ひとりひとりの入居者の得意とすること、興味があることを把握し、できることをお願いするように役割分担をしている。ドライブ・ショッピング・地域への行事参加は入居者と相談しながら行っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的買い物に出かけ、買い物時には本人が自分の財布からお金を払うことで社会性の維持を図っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できる限り、日常的に天候や季節に合わせて、入居者の希望を聞き、外出できるように機会を作っている。	○	月に1回はドライブ、デパートへの買い物など、遠出の外出を取り組み始めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家へ帰りたい、故郷に帰ってみたい、お墓参りをしたい希望は、家族や支援者の協力を得ながら、必要な段取りをしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や馴染みの人が気軽に来ることができるように対応している。本人のプライバシーが侵害されないように配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間については、特に定めずに対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏があり、夜間のみ家族の同意のもとベッドに柵をしている方がいる。無意識のうちに身体拘束をしないように、具体事例をあげながら理解をすすめていきたい。	○	ベッド柵をはずせるよう、不穏の改善のための取り組みをしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口が自動ドアとなっているため、安全のため(勝手に開いたり、狭まったりする危険性)手動操作としており、開閉は職員が対応している。自分で外出が可能な入居者については、ドアの開け方を教えている。その他、外出を希望する入居者については、その都度、職員が対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はいつでも対応できるように見守りをしている。夜間は、数時間おきに様子を見ており、24時間安心して過ごすことができるよう支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物については、外から見えないように管理している。人手が少なくなる夜間帯は、特に危険物は目が触れないような取り組みをしている。危険な物品を用いる時は、職員と一緒に作業をするなど配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとりひとりから、予測される危険について、情報を共有している。また、起こり得る危険について、未然に防ぐ取り組みを職員全員で行っている。ミス・事故・トラブル用紙ではなく、ヒヤリ・ハット用紙も活用していきたい。	○	ヒヤリハットを、活用していく
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の学習会を職場内では行っている。	○	応急手当の講習会を受けれるよう全職員に働きかけていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職場での学習会、避難訓練は実施したが、入居者と一緒の訓練は日常化できていない。	○	職員の意識付けと入居者の訓練も含め、日常的に行う避難訓練を作り上げていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に話し合いを持っているが、その後には通信でお知らせしている。面会時、ケアプラン作成時に話し合いが持てるように努力している。	○	ひとりひとりに起こり得る危険について、家族と話し合いながら、本人にとって最良の支援があるか考えていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の観察、記録、申し送りをきちんと行い、情報の共有をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとり専用の箱に名前を入れて、配薬の間違いを起こさないように配布している。薬の目的、副作用については、職員間で学んでいる。薬の説明書もすぐ取り出せるように置いてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各自の排便のチェックに取り組み、排便コントロールには気をつけている。	○	プライベートを傷つけないような声かけ・声の大きさ・場所なども配慮していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性については、歯科衛生士を講師に学習している。毎食後の歯みがきは、義歯の方についても洗浄している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、入居者の食べたもの、水分摂取量は個別のチェック表に記入して、管理している。食事の献立については、栄養士の助言を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種は、職員、入居者共に受けるようにしている。感染予防としては、トイレ後の手洗い、食事前の手洗いを徹底している。手拭きタオルの交換を頻回にしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁は、熱湯消毒、布巾の煮沸消毒は毎日行っている。食材については、日付や分量の把握を行い、計画的に消費するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気軽で明るい雰囲気を出すように、木造り看板、植木などを置き、季節感を出す工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やホールに入居者と共に考えながら、家具や備品を揃えている。光、音などについてはできる限り、生活感が失われないように配慮をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気軽で明るい雰囲気を出すことができるように、廊下や階段などに花や入居者が描いた作品を飾るなど、演出を心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、できる限り、それまでの生活環境を変えないよう工夫に心掛けている。持ち込む家具類について家族とも話し合い、長年愛用したものが活用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員は入居者の体調を崩すような温度にしないよう、こまめな空気の入替え、換気にも注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所では、入居者の自立を促すことができるよう、キッチン、ホール、浴槽、トイレなど、生活空間の環境整備に取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなど、場所の把握について、混乱することがないように配慮している。	○	案内板や表示で分かりやすく工夫していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやペランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りに花や野菜を植えたり、ベンチを置き、そこで気軽にくつろぐことができるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①1人1人のスタッフがやりがいをもってゆけるように、なんでもノート・週1回のカンファレンス・月1回の職員会議・各委員会などで発言の場を多くしている。